インターアクティブ百科
「天体と宇宙」

渡部潤一 監修（文部省国立天文台）
制作／発行 DDP デジタルパブリッシング
1997 年 7 月 30 発行
本体価格 11,800 円

CD-ROM
お薦め度
☆☆☆★★

かつてある雑誌で，書籍にかかる維持費はいくらかという内容の記事を読んだことがある．日本の住宅事情は決してよくない．殊に都会で借家暮らしをする読書人にとって書籍を保管するスペースは蔵書数を増すに従って日々生活空間を侵すことになる．豪華なカラー図鑑などを購入するとなると，それを置く場所に事欠く．現実に筆者の自宅や職場では，それらの書籍が溢れ，本棚のキャパシティを越えてしまっており，はみ出した書籍の置き場所に困っているのが現状である．しかし，今回紹介する『天体と宇宙』はそんな憂慮を払拭するような新しい媒体によって構成されている．すなわち，分厚い紙の累積から直径 12 cm，厚さ 1 mm のポリカーボネートの円盤に取って代わられているのだ．CD-ROM は確かに今後の情報媒体としての主流になるのではないかという感がある．今年京都で開催された国際天文学連合総会で，日本の天文学を紹介する一枚の CD-ROM が制作された．しかし，一概に CD-ROM が万能であるとは認められない．なぜならそれを読み取るためのコンピュータが必要であるし，実際に読み取るまで CD-ROM に収納されている内容が分からないという短所がある．いかにコンピュータの需要が増えたとはいえ，それを使うことができなければ，CD-ROM は単なるプラスチック性の円盤でしかない．かつて，文学作品をカセットテープに吹き込んだカセット文庫なるものが流行した．はたして CD-ROM 図鑑とも言うべきものが，どのような経緯をたどるだろうか．いずれにせよ従来の書籍タイプの図鑑もすたれることはないと感じる．

さて今回紹介する『天体と宇宙』であるが，内容はその名の通り天体と宇宙について，多岐にわたる分野を網羅している．宇宙開発，天文学の歴史，太陽系内外のさまざまな天体，最新の宇宙論および宇宙開発や天文学の発展に寄与した人々の紹介などである．特にいいのはナレーション機能と 28 本にもおよびビデオ映像が収められていることだ．いちいち CRT 上の文字を読まなくても，そこに映っている図解をながめながらナレーションを聞くことによって，内容を理解することができる．ロケットの打ち上げシーンや太陽表面のプロミネンスの動きを示すビデオ映像は迫力があり，CD-ROM ならではの演出と言える．また，解説文中に専門用語が出てきたら，そこをクリックすることにより，さらに噛み砕いた解説が表示され，理解の助けとなる．さらに，例えば宇宙論の項目を見ている時に，それに関連する天文学者を知りたいと思えば，すぐにその項目にリンクすることができる．また別に，指定した時刻と場所における星空を再現する天体シミュレーターや月面着陸ゲームなどのお遊びなども用意されており，天文ファンであれば，その年齢に問わず楽しめそうな CD-ROM である．しかし個人的な嗜好から言えば天文学の歴史にもっと多くの記事を載せて欲しかった．翻訳版とあってか日本の天文学史は皆無であり，古代から優れた観測や暦法のあった中国についての記事もないのが残念である．だが，天体シミュレーターのタイムトラベルという記事に，1054 年の超新星が日本，韓国および中国で観測されていることが述べられている．これ以前の年代を設定し，天体をシミュレートすると「かに星雲」が表示されないという念の入れようには脱帽した．社会教育施設に一枚あってもいい CD-ROM だ．　　栗田和実（館林市子ども科学館）